

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念とは別に職員で年間の目標を設定している。本年は「心のゆとりを持って何事も真剣に取り組むケア」とした。	○ 職員会議で目標の再確認と、取り組んだことを発表している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り後、毎朝職員で理念を唱えている。又、誰もが見えやすい場所に書き出し、掲示している。	○ 理念は8つあるが、職員一人一人がそれぞれに今日の自分の心に留めたケアに当たっていける体制作りをしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年に2回の家族会、隔月に1回の運営推進会議の際には、ホームでの事業報告等をして意見交換をしている。	○ 回覧等、有効に活用し、地域の方々へホーム内催事(行事)のお誘いをし、夏祭りは地域との交流の恒例行事となりつつある。又、家族会のお手伝いもいただいている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常でのお付き合い以外にも夏祭りやホーム内花火大会等で、立ち寄り、遊んで行ってもらった。	○ 外にテーブルとイスを置く等、庭先の工夫をし、いつでも気軽に立ち寄っていただき、おしゃべりできる関係を維持していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敷地内に学童保育を運営、加えて市での事業の「集いの広場」や高齢者ほほえみセンターが近隣にある。また小学校も近いため地元の方との交流は多い。本年も、当ホームにて夏祭りを開催し、多くの方々と触れあえた。又高齢者ほほえみセンターの方々との合同」での運動会も盛大に開催できた。	○ 毎年恒例の行事や単発での行事を継続していけるよう計画を立て地域の方々と一緒に築いていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	○	<p>・福祉有償運送事業の指定を受け、包括支援セン ターや地域の方々に相談しながら着実に準備を進 めている。</p> <p>・今後地域の独居高齢者への夕食提供サービスを 検討していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	職員会議で話し合っている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	○	会議を最大限に活かし、地域の資源又地域の方々の協力をいただき、更なる質の向上に繋いでいきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>	○	市内、地域密着型サービス事業所間での「地域密着型サービス部会」（設置）が市の協力のもと、実現した。各専門部会での研修等充実していきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	○	定期的に学ぶ機会を持ち、スタッフ全員が常に自分自身、又お互いを見つめ合える職場環境を整えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分時間をかけて、理解を得るまで話し合っている。	○	契約であるから一方的でなく、双方が合意するまで、時間をかけて納得のいく説明を今後とも心がけていきたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	今年は、市の介護サービス相談員派遣事業の相談員による月2回の来訪があり、利用者お一人お一人が外部の人とお話できる機会ができた。	○	介護サービス相談員記録集を閲覧して、改善すべき点があれば、随時検討していきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	日々の健康状態を記した温度板や、暮らしぶりについて、担当者からのコメントを書いた手紙を毎月1回写真を添えてご家族へ送っている。また、預かり金の出納帳も同様にしている。その他状態の変化時には随時電話連絡をしている。職員の離職・就職については、家族会の折に報告している。	○	家族等へ認知症を理解していただく講座を開催したい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	契約時や家族会開催時に説明を行っている。		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	業務上、全員参加の会議は難しい。	○	業務上、全員参加の職員会議を行うことが難しい中、全員が参加できたと思える会議ができるよう工夫をかきねたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	開設当時から職員には当たり前のことであることを周知している。	○	年に一度はマニュアルの見直しをして、利用者や家族に対して、より柔軟な対応ができるよう話し合っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職等の意志がある場合には、早めに申し出るように職員へ呼び掛けている。又新規の職員を早めに補充することで業務に影響がないよう努めている。利用者に対しては、きちんと説明し送別会を共に行っている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を年度初めに立て、計画に沿って行っている。又、学んできたことを職員会議の時に発表する機会を設け、全体的な質の向上に努めている。	○	県主催の厚生労働省大臣の研修・介護労働安全センターのスキルアップ研修・その他。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業者連絡協議会の地域密着型サービス部会でされている。	○	同業者に呼びかけをしてネットワークづくりをしたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	資料等の増加に伴い、事務所のスペースが手狭になってきている。	○	<ul style="list-style-type: none"> 資料の管理する場所の確保と工夫に力を入れたい。 新事業のスタートによりスタッフの増員、又業務上の困惑が少々見られた。スタッフ間のコミュニケーションが上手にとれるよう、いろいろな機会や時間を設けていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理事会での会議内容や法人の運営状況と方針を随時、全職員へ伝達し、一丸となって、業務ができるよう努力している。	○	スキルやキャリアに合わせた研修の推奨等、今年度より計画的に実施、又、希望をとり学びたい研修会への参加「一人一研修」に取り組んだ。今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申込書受付時にご家族からご本人の情報を聞き、ご本人を訪問し、状態等を聞き入れる。	○	申込時にご本人にもホームを見学していただき、接していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から十分な情報を聞き入れる。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける以前に関わった事業所があれば情報の収集に努める。十分な聞き取りをし、必要があれば他事業所等へ紹介等をしている。	○	他事業所や医療機関とのネットワークづくりを常に意識した上で、情報の共有に努め、広い分野のチームで「必要な支援」の見極めをこれからもしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人のペースに合わせて、必要に応じてご家族へ協力を依頼し、環境づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式を使って、ご本人の情報を得るために、担当職員が時間をかけて接している。	○	利用者同士が共に支えあえる場面作りを意識していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族と行う夏祭りは、毎年恒例となりつつある。 ・家族会の時には必ず入居者・家族・職員と一緒に食事をする。 ・利用者の個々の状態に合わせて一泊、日帰り旅行を実施し、ご家族の協力を得られた。	○	ご家族の都合や利用者の希望に合わせ、更に柔軟な対応をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の言い分やご家族の言い分を整理して、双方により良い支援が築けるようにしている。	○	ホーム内外で家族との交流を深めている。ご本人、ご家族が互いに、互いの暮らしぶりや近況を知らせ合えるような関係づくりの橋渡しとなっていかなければいけない。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族からの情報を基に馴染みの人や場所の把握に努めている。	○	手紙や電話での交流支援。又、面会も随時受け付けている。もともと住んでいた地区の行事に参加される方もおり、引き続きご家族との連絡を密に相談しながら支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングに長椅子を置いたり、ダイニングの配置の工夫をして、みんなで関わり合えるよう努めている。	○	気の合わない方同士、さり気なく職員が間に入るようにして、トラブルが大きくなるよう、より配慮していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居して、施設に入所したケアマネージャーにはその後の様子を聞いている。	○	退居されたご本人又はご家族に年に1度は電話を入れ、その後の様子を聞く等、交流が絶えない努力をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリング等の情報を職員間で共有し、希望や意向に沿った生活ができるように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	そのようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	そのようにしている	・リビングに1ヶ月の予定を張り出すことによって、それを見て、カレンダーを意識する方も出てきた。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使ってアセスメントを行い、定期的にご本人のためのケアについて話し合いをしている。	○ 再アセスメント時に新たな情報等が入ってくることもある。又ご利用～終末までのトータル的なケアの実現も図るべく、ご本人と関わった施設外のサービス事業所との連携もより充実させていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今年からモニタリング様式を新たにし、利用者の直面する心身の状況変化を迅速に見つけられる工夫に力を入れた。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、温度板、アセスメントシートその他、申し送りノートを使って、職員間に情報が浸透するように努めている。	○	ディサービス事業の展開もあり、外部からの新たな利用者の情報の共有を、より強化していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理事長が医師のため、医療的フォローの要望が多い。医療機関への連携が取り易く、状態や症状に合わせた受診や検査、及び治療が円滑に支援しやすい。又、嘱託医を配置して医療に重点を置いている。	○	今年5月から共用型ディサービスを開設。又、福祉有償運送事業の登録が済んだので、入居者の外出支援の要望に答えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	高齢者ほほえみセンターへの訪問を希望する時は送迎している他、合同で行事を行っている。絵手紙、蕎麦打ち、お化粧、生け花等のボランティアは定着し好評である。	○	地区の行事や産業文化祭への参加も毎年行っているが、更なる充実を図っていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	まだ例はないが、今後必要があれば活発に行っていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で話し合っている。	○	施設の持つ機能を十分活かせられるよう更に協議し、連携を深めなければならない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的且つ突発時の受診や往診は、施設独自の連絡票等も使い、円滑である。また月2回の嘱託医による定期健診をおこなっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の嘱託医の月2回の受診。	○	進行速度や、その状態・周辺症状に合わせ、内服薬の調整をしたり随時、医師よりご家族へ説明をする等、一方通行とにならないよう努力している。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護職であり、かかりつけ医や、医療機関と連携し、健康管理と内服薬の調節等常に注意を払っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族とも連絡を取り合いながらそのようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	努力している。	○	終末期の勉強会を開催したが、年に数回は行っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態を見ながら医師に相談し、家族へ報告しながら、利用者に対する制約だけが先立たぬよう心掛けている。	○	・終末期に向けた勉強会をした。 ・緊急マニュアルの見直しをし、理事長の協力のもと「AED」を設置、消防署・救命救急士による取扱法などの講義を受けた。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居時には、家族や関係機関との情報交換を特に密にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する資料はファイルに綴り書庫に保管している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なるべくご本人の希望を聞き、要望に添ったことを行っている。毎日の日常では、個別的な対応を心掛けている。	○	日々、全ての利用者の希望を取り入れる事は思った以上に難しく、個別・又は少人数の外出や旅行を今年も実施。恒例行事とする予定。お一人に時間をかけ色々な話をする事で、その方の思いや希望を聞き出す良い機会となればと考えている。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の食事や入浴、余暇の時間など、その日・その時のご気分に合わせて柔軟な対応ができるよう努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を取り入れて理容店に送迎する。美容については出張日に合わせて、また行きつけの店へ送迎している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	利用者全体で関わっていただけるような調理方法やメニューの考案が課題。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	現在は玄関先にて喫煙しているので、冬の期間は寒さが心配である。他の方に迷惑をかけることなく喫煙ができる機器を取り入れたい。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>・チェック表を確認しながら排泄ばたんの把握に努めた。昼・夜のパターンのちがいや情緒面に着眼、日中おむつのいない利用者が1名浮上</p> <p>おむつ使用で入居された方は、定時での声掛けや誘導により自らトイレに行くようになり、おむつは必要なくなった。全員が気持ちよく排泄できるよう努めたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	常に利用者の情報集収に努め、現在の状態や興味等に合わせた楽しみや気晴らしができるよう努力していかなければならない。


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	○	<p>お金を所持を希望する方を増やして、いろんな工夫をして、利用者に対しお金を使う機会を増やしていきたい。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	<p>天気の良い日には戸外に自由に出入りできるようにしている。畑、花壇、近隣公園、または日常の買い物等外出する機会を増やす努力を今後ともしていきたい。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族にも一部参加をいただき、良い時間を過ごすことができた。今後もいろいろな形でご家族と関わる交流ができる機会をもちた。 ・個別外出や外出支援事業を利用して本人本位の支援をしていきたい。
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	○	<p>入居者が全員ご家族へ年賀状だけでも出せるようにしたい。</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		<p>訪問者には面会届を書いて頂き、自室で自由にしていただいている。事前に予約を受けた方は、随時宿泊も受けている。</p>
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>職員全体が理解を深めるために、定期的な勉強会を行う必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>危険物があった時などは、詳しく説明して、本人が納得した上で、自己管理している方にもいる。他は事務所で預り必要時に渡し、使用後は再び預る。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>今年はAEDを設置したので、消防署に依頼し、使用方法等の勉強会を実施した。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>消防署の指導のもと、夜間を想定しての避難訓練を実施した。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事あるごとにご家族には連絡をとり、利用者・家族が共有した知識を持つようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	快食・快眠・快運動を心掛けている。乳製品や繊維質の摂取やラジオ体操、午前、午後のリハビリ体操は毎日行っている。3日以上排便がない場合は、薬物投与にて様子を観察している。排便パターンの把握に努め、医師に相談しながら対応をしている。	○	毎日ひとりひとりの最終排便の様子を申し送り時に行っている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ごとに口腔ケアを職員が付いて行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関のアドバイスを受けて、季節ごとの水分摂取量等の指示を受けている。又連携施設の管理栄養士の指導を随時受け、メニューのバランスや見直しに努めている。	○	嚥下困難な方には、スポーツドリンクをゼリー状にして、適量摂取できるよう工夫している。昨年同様、担当職員の研修も行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎年インフルエンザの予防接種を職員・入居者全員実施する他、食前や外出した際には手洗い・うがいの徹底を心掛けている。	○	新たな情報は、その都度医師である理事長よりいただき指導を受けている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生係を置き、徹底的に行っている。	○	常に整理整頓をしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自由に出入りができるようにしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁に季節ごとの花、果実等を飾っている。外には花壇や農園もあり、季節ごとで、メリハリをつけている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、対面できるよう堀ゴタツと椅子をおいて居場所を造っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	畑や花壇を作り、野菜や草花を植えて楽しんでいる。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・お陰さまで当施設も開設以来3年が経過しました。今年から福祉有償運送サービス事業の指定を受け、利用者や地域の方々へのサービスの充実を図っていきたいと思います。5月からは、共用型の通所介護事業もスタートし、通所利用者のある日には、ますます楽しくにぎやかになりました。
- ・理事長が医師であるため、医療機関との連携も取りやすく、日々の体調チェックを基にお一人お一人の健康管理を理事長や嘱託医の指示の下、職員全体でさせていただきます。
- ・近隣に小学校や高齢者ほほえみセンター、敷地内には学童保育館、子供のつどいの広場があるため地域の方々や子供たちとのふれあいが日常的にあります。
- ・今年の夏も「夏祭り」を開催。この夏祭りも、地域をあげての恒例行事となりつつあります。
- ・「あすなるに来てよかった」と思っただけのよう、利用者お一人お一人の状態や体調、気分に合わせて心地良く過ごせる空間作りと日常生活の個別サポートをスタッフ一同常に心がけています。